

地 域 再 生 計 画

1 地域再生計画の名称

豊かな自然環境の持続と安定した暮らしのまちづくり計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

岐阜県、飛騨市

3 地域再生計画の区域

飛騨市の全域

4 地域再生計画の目標

飛騨市は岐阜県の最北端にあり、高山市から北に約 15km、富山県富山市から南へ約 68km に位置し、北アルプスの豊かな水やブナの原生林、貴重な高山植物が咲き誇る^{あもう}天生県立自然公園をはじめとする広大な緑に囲まれた、標高 200m から 2,800m の美しい自然環境に恵まれた地域であり、人口は約 26,000 人で少子高齢化のすすむ過疎地域である。

H22 の高齢化率は、全国 23.0%、岐阜県 24.1%、飛騨市 33.3%（県内 40/43 位）だが、H52 人口推計では人口減少率は全国－16.2%、岐阜県－20.2%、飛騨市－40.7%で、高齢化率は全国 36.1%、岐阜県 36.2%、飛騨市 45.5%となり、市では老年人口が生産年齢人口を逆転すると予測されており、人口減少への対策が急務となっている。

また市域の約 93%を森林が占め、農林業を中心とした典型的な中山間地域で、1 級河川宮川や高原川が流れ、清流を代表するアユが有名なことや海の幸が豊かな富山湾に通じる神通川水系の上流域に位置することもあり、広大な森林には木材生産機能だけでなく水源涵養や山地保全の防災機能等の発揮が求められている。

しかし近年では、経費の高騰や林業従事者の高齢化、木材価格の長期に渡る低迷により、森林所有者の森林に対する関心や施業実施意欲の減退が顕著に現れ森林整備が進まず、平成 11、16 年には記録的豪雨により林地崩壊が溪流沿いの大量の立木を土砂とともに流出させ、周辺地域や下流域に甚大な被害をもたらした。

林道施設は建設から相当の年数が経過しており老朽化、保全対策が必要である。また森林施業地周辺の市道には幅員狭小など安全に通行できない箇所が多数あり、その危険箇所を解消する道路整備が重要な課題となっている。

そのため森林施業区域に接続する市道及び林道の整備により、間伐による森林整

備を推進し災害に強い森林づくりを進めるとともに、手入れされた豊かな森林資源や^{あも}う天然湿原など三湿原のトレッキング、廃線となった神岡鉄道を利用したレールマウンテンなどのエコツーリズム・グリーンツーリズムにより観光客の増加を目指し、地元住民との交流を図りながら経済効果を持続させることで人口減少の歯止めの一端を担い、豊かな自然環境の持続と安心・安全が実感できるまちを目指すものである。

(目標 1) 災害に強い森林づくり (搬出間伐量を 40%増加)

4,073 m³ (平成 20~25 年度[異常値平成 24 年度を除く]の平均)

→5,300 m³ (平成 29 年度) →5,700 m³ (平成 27~31 年度の平均)

(目標 2) 市内道路の危険個所の解消 (危険個所数を 40%解消)

22 箇所 (平成 26 年度) →16 箇所 (平成 29 年度)

→ 13 箇所 (平成 31 年度)

(目標 3) エコ・グリーンツーリズムによる観光客の 31%増加

38,000 人 (平成 26 年度) →40,000 人 (平成 29 年度)

→ 50,000 人 (平成 31 年度)

(目標 4) 生活インフラとして重要な林道の安全性確保の推進 (点検診断の実施率)

0% (平成 26 年度) →100% (平成 29 年度) → 100% (平成 31 年度)

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

「林道森安～万波線」、「林道登谷線」の林道整備により森林へのアクセスを確保し、林道の保全対策による林道の安全性の確保及び 5-3 その他の事業を活用して間伐を推進して健全な森林づくりを行う。

また「市道高野スキー場線」、「市道第 1 館野町線」、「市道第 5 梨ヶ根線」、「市道第 1 塩野線」、「市道林～丸山線」、「市道新名山^{しんみょうやまうね}畔線」、「市道角川～中澤上^{なかぞれ}線支線 1 号」及び「市道下村～中切線」及び「市道跡津川線」の道路整備を行い通行危険個所の解消を図り、安全で安心して通行できる道路ネットワークを構築する。

5-2 第 5 章の特別の措置を適用して行う事業

道整備交付金【A3001】

対象となる事業は、以下のとおり事業開始に係る手続きを完了している。なお、整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。

- ・市道 道路法に規定する市道に認定済み。()内は認定年月日

高野スキー場線	(昭和 56 年 1 月 1 日)
第 1 館野町線	(昭和 58 年 3 月 18 日)
第 5 梨ヶ根線	(平成 15 年 9 月 26 日)
第 1 塩野線	(昭和 58 年 3 月 18 日)
新名山畔線 <small>しんみょうやまうね</small>	(平成 14 年 3 月 29 日)
角川～中澤上線支線 1 号 <small>なかぞれ</small>	(昭和 56 年 3 月 19 日)
林～丸山線	(平成 12 年 3 月 29 日)
下村～中切線	(昭和 56 年 3 月 19 日)
跡津川線	(昭和 58 年 3 月 18 日)

- ・林道 森林法による宮・庄川地域森林計画変更計画書(平成 27 年 12 月 25 日変更)に路線を記載。

林道森安～万波線
林道登谷線

- ・林道の保全対策

林道双六瀬戸線

【施設の種類】 **【事業主体】**

- ・市道 飛騨市
- ・林道 飛騨市

【事業区域】

- ・飛騨市

【事業期間】

- ・市道 平成 27 年～平成 31 年度
- ・林道 平成 27 年～平成 31 年度

【整備量及び事業費】

- ・市道 1.78km
- ・林道 0.60km
- 林道の保全対策(点検診断) 32 路線 61 箇所(保全整備) 1 路線 4 箇所
- ・総事業費 777,000 千円(うち交付金 377,700 千円)
 - 市道 444,000 千円(うち交付金 222,000 千円)
 - 林道 333,000 千円(うち交付金 155,700 千円)
 - うち林道の保全対策 44,000 千円(うち交付金 22,000 千円)

5-3 その他の事業

地域再生法による特別の措置を活用するほか、「豊かな自然環境の持続と安定した暮らしのまちづくり計画」を達成するため、以下の事業を総合的かつ一体的に行うものとする。

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 森林整備地域活動支援交付金事業

内 容 森林施業の集約化に必要な森林情報の収集、境界確認等の諸活動に対して支援する。(農林水産省支援事業)

実施主体 飛騨市

実施期間 平成27年4月～平成31年3月

(2) 森林環境保全整備事業

内 容 面的にまとまって計画的に行う搬出間伐等の森林施業と、これと一体となった森林作業道の開設を行う。(岐阜県支援事業)

実施主体 飛騨市森林組合、ひだ森林整備協同組合

実施期間 平成27年4月～平成31年3月

(3) 環境保全林整備事業

内 容 既存の林業経営では採算の合わない飲用水や農業用水等の水源地域や渓流域、急傾斜地等の森林の整備・保全を推進するため間伐等を支援し、環境を重視した森林づくり、森林の公益的機能の維持増進を図る。(岐阜県単独事業)

実施主体 飛騨市、飛騨市森林組合

実施期間 平成27年4月～平成28年3月

(4) 里山林整備事業

内 容 野生鳥獣による被害の軽減など地域住民の生活環境の保全や、生物多様性の保全を図るため里山林の整備・管理を支援する。(岐阜県単独事業)

実施主体 飛騨市、飛騨市森林組合

実施期間 平成27年4月～平成28年3月

6 計画期間

平成27年度～31年度

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

4に示す地域再生計画の目標については、計画期間の中間年度及び計画年度終了後に飛騨市が必要な調査等を行い、速やかに状況を把握する。

定量的な目標に関わる基礎データは、岐阜県や飛騨市で行う調査データを用いて評価を行う。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

	26年 基準年度	29年 (中間年度)	最終目標
目標1 搬出間伐量の40%増加	4,073 m ³ H20~25 平均 (H24 除く)	5,300 m ³	5,700 m ³
目標2 市道の危険箇所の40%解消	22 箇所 100%	16 箇所 72%	13 箇所 59%
目標3 エコ・グリーンツーリズム 観光客の31%増加	38,000 人	40,000 人	50,000 人
目標4 点検診断の実施率	0%	100%	100%

(指標とする数値の収集方法)

項目	収集方法
搬出間伐量の増加	岐阜県伐採実績管理データ
市道危険個所の解消	飛騨市建設課の道路整備に関する調査
エコ・グリーンツーリズム観光客 の増加	観光レクリエーション動態調査

・ 目標の達成状況以外の評価を行う内容

1. 事業の進捗状況
2. 総合的な評価や今後の方針

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

4に示す地域再生計画の目標については、中間評価及び事後評価の内容を速やかに岐阜県・飛騨市ホームページにより公表する。